

Harmony

今、男女共同参画社会の実現が求められています。今回は、性別による「固定的役割分担」について、考え直すヒントに、「主夫」の経験をした古本屋「たれば書店」店主の山本大介さん、育児休暇を取得した大学講師・渡邊太さんに話をお聞きしました。

主夫になってみて

感じたことは
主夫になる前は、子育てをしながらか、自分の好きな時間をたくさん過ごせると思って仕事を辞めました。ところが、1歳の息子といると自由な時間がなく、生活のオンオフ、メリハリをつけることが難しく、自分で時間管理をすることが必要だとわかりました。

良かったと思えたことは

息子と向き合い、一生に一度の乳幼児期をともに過ごせたことです。そして、自分の住む地域が見えてきたことです。鶴見区から守口市のマンションに引っ越してきた1年後に息子が生ま



山本大介さん：息子さんが1歳の時から4年間、「主夫」を経験。

れましたが、それまではほとんど地域のことを知りませんでした。ところが、息子を通じてママ友、パパ友ができたことや、ベビーカーを押しているだけで、見知らぬ近所の人から「可愛いね」と声をかけてくれ、地域の人たちとのつながりに気づきました。そのうえで、子育てを通じて守口というまちを知り、考えるようになりました。現在は、子ども子育て会議などに市民公募委員として参加もしています。

経験は役立っていますか

私は本が大好きで、図書館や書店に行くことが多いのですが、乳幼児を連れていくことがなかなか難しかったことを経験しました。今、守口市駅前で古本屋を営んでいますが、親が乳幼児と一緒に来店できる古本屋にしたいと店づくりをしています。

「主夫」にしても、「主婦」にしても、とても大変な仕事であり、生き方を尊敬します。自分には父親がいなかったので父親のイメージがありませんでした。「あるべき父親像」をずっと模索しながら子育てをしてきました。

でも、今、思うことは、「なんでもありやな」、息子はこんな自分でも「お父さん」と呼んでくれる。父親像・母親像、そして家族像はいろいろあっていい、自分らしい家族をつくっていくことが大切だと思います。

職場の理解はどうでしたか

大学は年間行事が決まっています代替要員も見つけやすいので育児を取りやすいかもしれません。「なぜ、男性が育児を取るのか」という意見もありましたが、育児を取る男性が多くなればこうした声も減るでしょう。ですから、可能なら積極的に育児を取って前例を作ることが大事です。育児を取りやすい職場環境を整備を通じて、企業も育児への社会的責任を担っているのです。

仕事に役立つことはありましたか

子どもは、親の思い通りにはなりません。それは学生も同じだと気付きました。こちらのやり方を押し付けるのではなく、相手の個性や思いに合わせて柔軟に対応する方を学びました。臨機応変の対応力はどんな仕事にも応用できるはずですよ。

ご自身にとって何か気づきがありましたか

核家族での育児には限界を感じました。一時保育、ファミリーサポート事業も利用し、友人にも頼りながら綱渡りの育児です。育児を経験するまでは子どもと接するどころか、子連れを見ることもあまりなかった。もっと社会全体で次世代を育てるための、寛容で多様な環境づくりが必要だと感じました。



大阪国際大学人間科学部講師・渡邊太さん：大学内で、男性として初めて育児休業(8カ月)を取得。

男が“育児休業”を取ってみて

取られた理由は

妻はフリーランスなので休むと単に収入が途絶えるだけですが、私が育児を取れば雇用保険の給付金で収入がある程度保障されること、0歳から1歳という成長が著しい時期に子どもと向き合ってみたかったことです。

育児に関わって感じたことは

乳児の1年は大人とはまったく違い、圧倒的な変化があります。子どもの日々の成長を間近で見ると、貴重な時間を一緒に過ごせました。それに、子育てが他人事ではなくなりました。仕事を言い訳にはできないので、「手伝う」という意識ではなく自分も育児の主たる担い手だと実感しました。

育児は大変ではなかったですか

一人と二人ではまったく違う。どうしても泣き止まない時でも、抱く腕が替われば落ち着く。苦労や不安も共有できればそれだけで軽くなります。一人の育児は本当に孤独できついなと思います。育児は、実は家事プラス育児でもあるので、家事のスキルも必要。できるだけ負担が一方に偏らないよう分担しましたが、夜中の授乳だけは母親頼みになってしまいました。仕事にはオフがありますが、育児には、オンオフがありません。その意味で、育児は仕事以上にハードです。

そういった経験の中で、これからの社会に必要なことは何でしょうか

乳幼児を連れていける場所が限られていると感じました。電車やバスなど公共交通機関を使うのもひどく気を遣うし、買い物や食事にしても、ショッピングモールをはじめとする「子連れで行くべき」場所に行ってしまう。「子どもがいる世界」と「子どもがいない世界」が分断されているせいで、育児が窮屈なものになっていきます。もっと多くのお店でも、「乳幼児連れでもどうぞ」という感じだと楽なのですが、いろいろな人が、いろいろな場所に行ける多様性のある社会の方が、誰にとっても生きやすいのではないのでしょうか。

女性相談の現場から 女性の悩みを生み出す 性別役割分担

守口市女性の悩み相談員

安田 香珠子さん
(女性問題専門心理カウンセラー)

女性は、どんなことに悩んでカウンセリングを受けに来られるのか？

以前、私のカウンセリングを受けに来られた皆さんの「主な相談テーマ」を分析したことがあります。

それによると、女性がカウンセリングを受けて何とか解決したいと思ってる悩みは、一言で言えば「対人関係」に尽きると言えますが、中でも一番多いのが「夫婦関係」です。夫婦の危機を強く意識しての相談で、離婚を現実的課題、あるいは願望として考えられているケースが目立ちます。その理由として、価値観の違い、夫の身勝手さや人格的未熟さ、コミュニケーションの無さをあげられることが多いのですが、離婚によって子どもから父親を奪うことになるという母として罪悪感、離婚後の精神的・経済的自立不安、そして夫への意地や未練といったことが離婚を決断しかねる大きな理由になっています。

こうした夫婦関係の不調の背景にあるのが、「固定的性別役割分担」です。男は黙って、女は従順でよく気が付き我慢強いのが良い」という日本の伝統文化がもたらした不合理な思い込み

が、女性から主体性や決断力、自己表現能力を奪い、男性には情緒的、共感的、相互尊重的コミュニケーション能力を欠如させて仕事への強迫的熱中やDVに走らせる原因となっています。夫婦・家族関係を巡る相談に多い「生き方」や「性格」を巡る相談内容については割愛しますが、女性に求められる固定的性別役割分担が女性の悩み、生きにくさを生み出す要因になっていることは共通しています。あなたに、もし思い当たることがあれば、性別役割分担から自由になることを願っています。悩みを抱える人には、「自分らしく」生きていくお手伝いをさせていただきます。相談にあたっては、

女性のための悩み相談

一人で悩まないで相談してください。
あなたのまわりに、こんな相談窓口があります。
時 第1火曜日～第4火曜日 13:00～16:00
(祝日・年末年始は休み)
場 市役所5階南エリア相談室507
備 前日までに要予約
申 問人権室
TEL 06-6992-1512